

# The かなし NO.12

今日は、は彼女への  
思いは断ちきるバイ

かんくろうの右腕、左腕、シリーズ、カズマ  
『頑固の方しゃん』の巻、復編一  
東京に何年も住んでも、一言も東京弁を  
しゃべらない！ 熊本弁で通す元貢国者の方  
しゃんが、かわい！ 彼女と知りあてしまった  
あの日。忘れもしないあの青春が真中の日。  
方しゃんは、荒れていた。見事なリーゼントを  
まっぴり切りおとし、ヒカヒカに丸刈坊主  
しかも方しゃんが、大きめのディスコに行こう！  
というのである。『オイ！ 今日とはヒンオレに  
つま合せ、ディスコに行かない！！』もちろんそれは  
いや——な予感。でも、方しゃんの気持ちも  
考えると、ヒンオレな方しゃんが、たのしみである。

もうすでにお酒が入っている。ババババトル  
だけは、さげなけり。ヒンオレもなヒンオレになら  
せう。私はどうやって方しゃんの気持ちをあさめるか  
ひたすら考えながら歩いたのだ。

『ガハハハ... ガハハハ... オイ！ 今日とはな、  
〇〇ちゃんのなあ、顔が、顔の中はうかんて、  
来ないようになあ、髪は、切ってみたハッテン  
〇〇ちゃんの顔が、オレの豆頭の皮にこびり  
ついてるとよー。頭の皮ににやー。この顔は、  
つがった、おれか、と、ハッテンして、豆頭は、ホコホコにして



もらって〇〇ちゃんの美しき顔は、鬼にせんこ！と  
してほしかあ！ たったおれか、おらんかあ！ オレの豆頭は、  
ホコホコにしてくれる女は？ えーっ？ た、おれか  
オレの顔は、...！！ す、す、発想である。  
やはりオレしゃんは、かなしである。彼女を元めるため、  
髪を切ったというヒンオレの話。でも方しゃんの言葉は  
よくきくと、ちよとちか。髪に、彼女の毛に、彼女が、のり  
うつついる、だから切った。でも、思いた、してしま。う。  
だったら、次は皮を、切る... みた、な...。  
ディスコで踊りながら、周囲を見渡している。  
ホントに、す、みのある顔で、「だ、だ、おれか  
オランヤー！？」とさげている。  
周りの人は、みんな方しゃんをさげている。  
でも方しゃんは、おれか、ま、なく、みんなの中に  
とんとん、踊り入っていく。

と、その時、  
「オイ！ 何や、アム、だ、  
踊りのじゃ、  
またー！！  
あ、あ、あ、  
方しゃんは、  
ヒンオレの視線、  
アフロヘアに、  
セーターをきて、す、  
いたのである。  
その時は、マリー、  
方しゃんの二度目の、  
始まった、  
—つづく—

